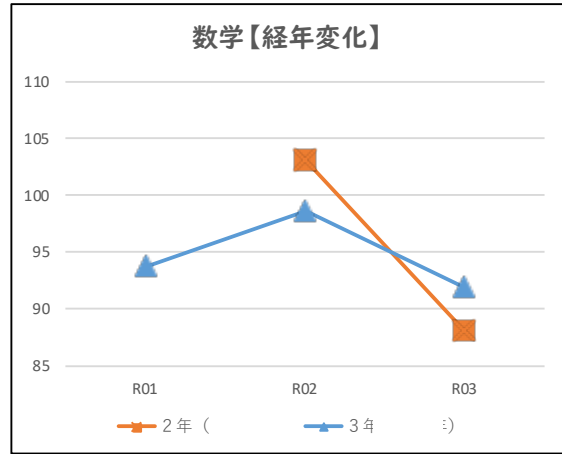
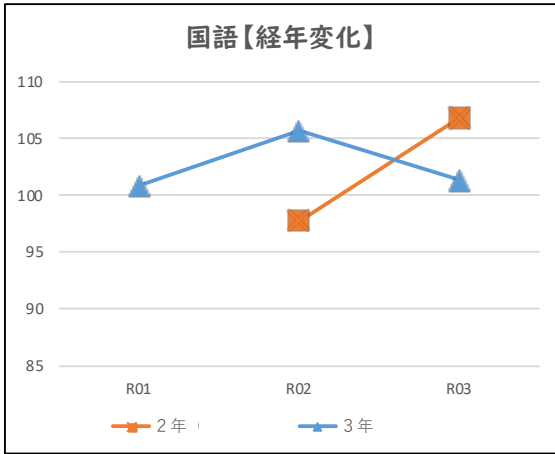


I 令和3年度末までの学力の状況把握(令和3年度 釧路市標準学力検査より)

各学年の経年変化(目標値を100とした時の各学年の状況)



○1年生【新2年生】の国語では、「基礎」「活用」とも目標値を上回った。「文章を書く」問題を除く全ての問題で目標値、全国平均を上回り、概ね満足の結果となっている。「文章を書く」問題については、目標値、全国平均を下回り、無回答率は1/4を超えている。

○1年生【新2年生】の数学では、「基礎」「活用」とも目標値を下回った。「平面図形」の問題では、目標値、全国平均を上回った。「文字式」の問題では、目標値、全国平均を大きく下回り、「一次方程式」「比例・反比例」の問題では、目標値、全国平均を下回った。

○2年生【新3年生】の国語では、「基礎」「活用」とも目標値とほぼ同様だった。「説明的な文章の内容を読み取る」「文章を書く」問題を除く全ての問題で、目標値を上回るかほぼ同様だった。「文章を書く」問題については、目標値、全国平均を下回り、無回答率は1/3程度となっている。

○2年生【新3年生】の数学では、「基礎」「活用」とも目標値を下回った。「証明」の問題では、目標値、全国平均をやや上回った。「式の計算」「連立方程式」の問題では、目標値、全国平均を大きく下回り、「一次関数」「図形の性質」の問題では、目標値、全国平均をやや下回った。

国語科では例年「書くこと」に課題があり、数学科では、今年度は計算問題の習熟が課題となった。経年変化を見ると、国語・数学とも、中1では前年度を上回り、中2では前年度を下回る傾向が数年続いている。2年次に伸び悩む傾向がどこから来ているのかを分析し、改善の方向を見つけていきたい。

II 各学年における成果と課題、令和4年度の取組 (○:成果 △:課題 ◇:継続する取組 □:新規の取組 ◎:改善する取組)

		今後の取組について	
1年生	国語	□学習規律やKEIUNタイムを取り入れた本校の授業スタイルに慣れていくよう細やかな指導を行う。 □言語活動に「書くこと」の学習を位置付け「読むこと」と「書くこと」の連携を図った学習活動を展開するとともに「話すこと・聞くこと」の学習の充実を図る。	
	数学	□学習規律やKEIUNタイムを取り入れた本校の授業スタイルに慣れていくよう細やかな指導を行う。 □「探究」型の学習を設定し、数学への関心・意欲を高め、思考力を育てる話し合い・学び合いの授業づくりに取り組む。	
		成果と課題について	今後の取組について
2年生	国語	○校内平均正答率は目標値を上回り、全国平均とほぼ同様だった。「基礎」「活用」とも目標値を上回った。 ○「話し合いの内容を聞き取る」問題では、目標値を10ポイント程度上回った。 ○漢字の読み・書き、文法・語法に関する問題、文学的な文章の内容を読み取る問題では、目標値を上回った。 △「文章を書く」問題では、目標値、全国平均を10ポイント前後下回っており、1/4が無解答となった。「書くこと」が引き続き本校の課題となっている。	◇言語活動に「書くこと」の学習を位置付け、「読むこと」と「書くこと」の連携を図った学習活動を展開する。 ◎書き方のスモールステップを示したり、条件の設定や時間内に書くことを意識させるなど、「書くこと」の学習指導により丁寧に取り組み、書く力の向上をめざす。 ◇ICT機器の活用や学習の形態を工夫しながら、聞く能力や話す能力等の育成をめざす。 ◇漢字ワークを活用し、定期的に漢字テストを実施する。 ◇長期休業の課題として、小学校で履修した漢字を繰り返し復習する。
	数学	○「平面図形」の問題では、目標値、全国平均を約9ポイント上回った。 ○「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の観点からは、全国平均とほぼ同様だった。 △「文字式」の問題では、目標値を10ポイント程度、全国平均を5ポイント程度下回った。 △「探究型」の授業スタイルへの移行により、授業内で定着・習熟のための演習の時間が減ったことで、技能を十分に定着させられなかった。	◇習熟度別少人数授業を継続し個に応じたきめ細やかな学習指導を行う。 ◇単元指導計画に「探究」型の学習を更に設定し、数学への関心・意欲を高め、思考力を育てる話し合い・学び合いの授業づくりに取り組む。ICT機器の活用とともに、自らの思考を深めていけるようなノートの方法について指導していく。 ◎単元指導計画のなかに「KEIUN」タイムを効果的に位置付けるとともに、計画的に学び直しの機会や時間を設定し、知識・技能の確実な定着を図る。

3年生	国語	<p>○校内平均正答率は、目標値とほぼ同様だった。「基礎」は目標値をやや上回り、「活用」は目標値とほぼ同様だった。</p> <p>○「文学的な文章の内容を読み取る」問題では、目標値、全国平均を5ポイント前後上回り、「発表の内容を聞き取る」問題、漢字の読み・書きでは、目標値をやや上回った。</p> <p>△「文章を書く」問題では、目標値を4ポイント程度、全国平均を8ポイント程度下回っており、1/3が無解答となった。「書くこと」が引き続き本校の課題となっており、重点的に取り組んでいく。</p>	<p>◇言語活動に「書くこと」の学習を位置付け、「読むこと」と「書くこと」の連携を図った学習活動を展開する。</p> <p>◎書き方のスモールステップを示したり、条件の設定や時間内に書くことを意識させるなど、「書くこと」の学習指導により丁寧に取り組み、書く力の向上をめざす。</p> <p>◇ICT機器の活用や学習の形態を工夫しながら、聞く能力や話す能力等の育成をめざす。</p> <p>◇漢字ワークを活用し、定期的に漢字テストを実施する。</p> <p>◇長期休業の課題として、小学校で履修した漢字を繰り返し復習する。</p>
	数学	<p>○「証明」の問題については、目標値、全国平均を3ポイント前後上回った。</p> <p>○「図形」の領域では、目標値、全国平均とほぼ同様だった。</p> <p>△「式の計算」「連立方程式」の問題では、目標値、全国平均を5～8ポイント程度下回った。定着、習熟の取組が不足している。</p> <p>△全ての観点において目標値を下回り全国平均をやや下回った。「探究型」の授業スタイルへの移行により、授業内で定着・習熟のための演習の時間が減ったことで、技能を十分に定着させられなかった。</p>	<p>◇習熟度別少人数授業を継続し個に応じたきめ細やかな学習指導を行う。</p> <p>◇単元指導計画に「探究」型の学習を更に設定し、数学への関心・意欲を高め、思考力を育てる話し合い・学び合いの授業づくりに取り組む。ICT機器の活用とともに、自らの思考を深めていけるようなノートの活用方法について指導していく。</p> <p>◎単元指導計画のなかに「KEIUN」タイムを効果的に位置付けるとともに、計画的に学び直しの機会や時間を設定し、知識・技能の確実な定着を図る。</p>

III 学校全体における成果と課題、今後の取り組みについて

① 成果と課題について

(授業づくり・環境づくり・習慣づくり) ○:成果 △:課題

② 改善の方向性について

※5W1Hで明記

(◇:継続する取組, □:新規の取組, ◎改善する取組 等)

授業づくり	<p>○身についた基礎・基本をもとに思考したり表現したりすることが苦手としている本校の課題の解決に向けて、～『基礎・基本』のオープンを意識した授業実践～を研究主題として、授業改善に取り組んできた。「探究型」の授業にシフトしてきた成果が表れ、手応えを感じている教科が増えている。</p> <p>△一方、習熟の時間が減ったことにより、基礎・基本の定着に不安を感じている教科もある。</p> <p>○後期より、月1回の教科部会の時間を確保し、研修部から出された課題を中心に、授業づくりについて研修を深めた。</p> <p>△本校では「書くこと」が課題となっており、特に条件を指定されたときに書けない生徒が多い。</p>	<p>◎研修部を中心に、「学習意欲の向上」を最重要テーマとして、全教科全教員で更に授業改善に取り組み、生徒が主体的に学習し、なりたい自分に近づけるよう粘り強く取り組んでいける授業をめざしていく。生徒が「身に付けた力」「発見」「新たな疑問」「自己の変容への気付き」を表現できるような、充実した振り返りに繋がっていくための学習課題を設定することで、探究の場面で生徒が主体的に学びに向かう姿を引き出していく。</p> <p>◇月1回の教科部会の開催を継続し、授業改善の方向性、課題解決の手立ての検討等について、こまめに情報交流しながら取り組んでいく。</p>
環境づくり	<p>○今年度は、夏期休業中の学習会を3日、冬季休業中の学習会を2日実施し、夏期休業中は21講座、冬季休業中は27講座と、自学自習教室、通級指導教室主宰の学習会を開催し、生徒のニーズに応じた補充学習の機会とすることができた。</p> <p>○ロイノートの活用を中心に、各教科でタブレットを活用した授業づくりが進んだ。自宅待機生徒への学習保障についても、MEETでの授業中継等、システムをある程度定着させることができてきた。</p> <p>△放課後家庭学習サポートルームは、緊急事態宣言や蔓延防止措置のため、1月末現在で78回の開催となり、予定回数の半分程しか開催できていない。</p>	<p>◇放課後家庭学習サポートルームは、週4～5日、放課後1.5～2時間開設する。退職教員等外部人材の活用と合わせ2～3名の教員で対応し、補充指導および自学自習が困難な生徒に対する学習習慣の育成をめざす。</p> <p>◎年度当初に、放課後家庭学習サポートルームの紹介と利用方法の周知方法を工夫するとともに、チャレンジテスト過去問題やフォローアップワークシートの利用を促す。</p> <p>◎定期テスト前学習会、長期休業中の学習会については、状況に応じて進められる限り開催し、学習意欲の向上を図っていく。</p>
習慣づくり	<p>△4月に全校集会をもち、授業への臨み方、家庭学習の方法、学習道具の学校保管・持ち帰りシステム(保管勉～「ほかべん」)の確認を全校一斉に行う予定であったが、学年毎の変則開催となった。また、初期指導の時期の臨時休校により、学習規律の定着に時間と丁寧な指導が必要となった。</p> <p>△行事や部活動がなくなりメリハリの少ない学校生活や休みが続く中、生活リズムの変化に上手く対応できない生徒が多くなっている。</p> <p>△生活のリズムが変わってきた中での、家庭での学習習慣の育成に向けた啓発活動や新たな手立てが必要である。</p>	<p>◇4月に全校集会を開き、授業への臨み方、家庭学習の方法、学習道具の学校保管・持ち帰りシステム(保管勉～「ほかべん」)の確認を全校一斉に行い、学校全体が共通認識をもって取り組めるようにしていく。</p> <p>◇各学期始めと、定期テスト2週間前に実施する生活リズムチェックシートと連動させ、家庭学習が上手く進められていない生徒に、定期テスト前放課後学習会への参加や、放課後家庭学習サポートルームの利用を積極的に勧め、自学自習の力の育成を図っていく。</p> <p>◎校区小学校と連携し、ノーゲームデーを設定して、望ましい学習習慣・生活習慣の啓発を図る。</p>

※必要に応じて高さを調節してください。

※3つの視点において、成果と課題を整理してください。また、課題については、具体的な記載をお願いします。

※改善の方向性については、「いつ」「どこで」「だれが」「何を」「どのように」行うのか。また「その理由」についても記載してください。